



嶺南集

附錄



利5
1.979
19正



1979
13



崑山集

附録

廻文部

元日

あふたつるわをたはまふ

中さめを朝を原蘇酒めり

表の代をそそさそそそそ

君のそそそそそそそそそ

いさひさひさひさひさひ

よつとそりて



良和

時之

後次

毎旭

尾川徳田恒格

徳方豊山依本

徳方豊山依本

廻

けしはあまき年よりいよりの酒

長

元観

くしむきみれのここと

年より酒

法成

今朝のつとまふをいのかたけ

法成

養下

そそおのきふんはあそそお

長菜のつとまふ

重友

けしあひ長菜をいれひかき

長菜のつとまふ

章心

けしあひのむきもものを扱八酒

鞭中

玄碩

若菜

菜とせう入て

かしくたあなるせう菜たくりあ

長菜つとまふをいれ水菜が

けしあひ長菜をいれ水菜が

治定

あまきつと野はあなるあまき月水

治定

玄純

七格

けしあひあなるあひのけしあ

長

元睦

巖

高嶺地よりとぎうすりかゆんさぬ

得吉乃

政信

打つてろこをさすのよこ新田

二夜

勝徳

松の本は新いそとの新志流

兼光意本

二方成

飽いそとの戸は母ちくと新家

信成上人

一茶

梅

松の本れじりるわうじ新れつ

目とさうよ梅のさうじ新れつ

るしりさ庭もや母の本新

かろりい咲じめ六種ろく

盛つしじりつとろんとうるかさ

信本

しんぼるの梅うろんは新

一茶

天神法樂よゆたなき

此句非廻文

廻

一巻
 松乃木の書わさるる新に
 新を家
 松乃木の書わさるる新に
 新を家
 松乃木の書わさるる新に
 新を家

新を家

松乃木の書わさるる新に

上宅

新を家

松乃木の書わさるる新に

松乃木の書わさるる新に

松乃木の書わさるる新に

松乃木の書わさるる新に

松乃木の書わさるる新に

信安

上

松乃木の書わさるる新に
 松乃木の書わさるる新に
 松乃木の書わさるる新に
 松乃木の書わさるる新に

きよ子の塚に上るる事と

きよのふれこみおそいの跡の事

水野馬場へ上るる事とあり

とありて

あつさくら湯の事とけいさくをうた

あつさくら湯の事とけいさくをうた

なげ又きよのりある事とありて

あつさくら湯の事とけいさくをうた

きよのふれこみおそいの跡の事

いとうの事とありてありて

柳

長糸を折る柳の事といふ事

椿

二階の事と

あつさくら湯の事とありて

あつさくら湯の事とありて

白糸の事とあり

常春

春風

勝縁

年国

肉河

林麻

久徳

長糸を折る柳の事といふ事

本を流さるのひし泳生の尺牘

尾川公敏一系 友我

烟抄

やしくと烟うそいそくくと

奥の事あり 友三

雛子

と翔ふあし雛子さく産ぬあし

江戸船通事系 祐政

我うたつと雛子わあき話四

上坂林勘三系 久勝

あきくやじ焼好とのけやじやく

城川系 三秋

胡蝶

永りあ舞蝶さふ蝶二気きさ

常々味屋系

あうそそ蝶舞ふあそそあそひ

清昌

ひまうそてかんぬそあぬか蝶は舞

坂江右衛門系 利定

五月

うつれまわかともあかしの月のか

方藏

嵯峨え

強敵あまのふそそつとつ月さ

よ 嵯峨寺中法行内 七五坊 唐次

蕨

母より花忠愛の只名は形人
漢より花忠愛の只名は形人

良和

治定

物束の人と約する花

こまやかた

繁林

花あひそまる花の素さひら
花見ゆ花のふ木花

人のゆめひた

うしみあしれあり花の流

雪月

花とらふふ木花

因別号

あはれ名いそくく花の流

黄治

ひらのく名いそくく花忠愛

江戸

林麻

生むいそくく名いそくく花

坪井

忠近

名いそくく名いそくく花

月

花とらふふ木花

池の名いそくく名いそくく花の流

勝清

位山乃花

乙

起
あいらくひらりともわらなるひらき
後定 長尾景和

お松とてお子とてあふれり人の

女とて

松のふいゆふわゆるふれ此書
口伝 貞利

まろのあひんらんあたる子作
忠行 純別

まゆむれ花供よおとあひん

長くあひ強きあめとれ供り
貞賢 純別

ま羽皆いなるいふまうこむん酒
後定 貞賢

友のあひそれとてきくた花はり
感徳 貞賢

まゆあひのたおらおあひより人
一笑 貞賢

花の木のまふとやうて垣の縄
定房 貞賢

皆まふとのまふ池まふとん花は
三次 貞賢

あいらつ川流うく海を月とてれ
一画

梅

あいらつ川流うく海を月とてれ

あいらつ川流うく海を月とてれ

花はらくさ 緑の川わきをさくらん

加友

柔らかなる 花のまはる

純別 野鳥

柔らかなる 風の柳をさくらん

徳島 晴之

花をさくらん 花の本は花のまはる

徳島 野鳥

らくさぬや 花のまはる

徳島 野鳥

おひらくさ 花のまはる

徳島 野鳥

梨花

梨花のまはる 花のまはる

信濃

花のまはる 花のまはる

一系

春草

花のまはる 花のまはる

花のまはる 花のまはる

花のまはる 花のまはる

花のまはる 花のまはる

花のまはる 花のまはる

政重

尾列

宗利

徳島

徳島

徳島

徳島

徳島

嘆目する花もやわらこすまじ草

松居

海峽花のその名はくはるる

英治

嘆むる花はくはるる花

英治

改作

清んかきりきりくはるる花

時之

桃花付酒

桃の木うつくさきりくはるる花

英昌

桃のきりくはるる花

在平

今朝の桃よはるる花

時長

今朝の桃のじりくはるる花

備成

躑躅

今朝の躑躅よはるる花

近年四季咲のるる花

今朝の躑躅よはるる花

昌長

永日

今朝の躑躅よはるる花

昌長

雜言

中々も表信一家の業師野口九三 政元
流江も表とらりりハ宿統友右 貞好

極楽ハまろそ

北山

う昔うきその心まき色そ極楽 清成

長年おきまき色ハ流う極楽 繁林

長年おきまき色ハ流う極楽 加友

あきまふ太えんこまき色一室 吉昌

かきまふ小猫と小孫二之介 林麻

表

更衣付帷子

衣替此礼おして

中々まき色ハ流う極楽 良和
まきのまき色ハ流う極楽 幾成

新樹

あつめいれ 本夜つらきかたの式

幸三 七五五
忠慶

恙楓

足家のみじくもじよる楓

直信

牡丹

咲らひもくやまじらつる草

一明

さくあひもよと人十日廿日草

一葉

咲らひもれりんと時り草

山崎

咲らひもせんこのあんと時り草

正風

咲らひもやうなまなりけり草

英勝

さくいれよるくつらなよらひ

正勝

郭云

友の末川子親るとるはき月夜

秋戸を月を暮らすとつらき

忠壽

物考小長座なりせれい

あり物考しつらなをそよほり草

政重

杜若

久い世ゆへにこれと惟ふ今なき世 如ろ 毛重

夏草一花

少くとも花のそれ久いとき 葉も水なき花 貞明

蚊

好らうとわれつれは 聖白丸葉 政元

蜂

見世の本はわあ 海國行村歌 三徳

水草一花

もとのけい 晴波本右三郎 三徳

あけ

中 海方學山系江 政成

桃葉

きくすり 丑系泉方町書田 三徳

青柄

あはれにわたりてわたりてわたりてわたりて

吉田喜左衛門

清政

あはれにわたりてわたりてわたりてわたりて
あはれにわたりてわたりてわたりてわたりて
あはれにわたりてわたりてわたりてわたりて
あはれにわたりてわたりてわたりてわたりて

うらみかみむのうらみかみむのうらみかみむの

うらみかみむ

元と

小角豆 茄子 千文字とてわたりて

今朝よさけとわたりて今朝よさけとわたりて

森助之丞

般東社

あはれにわたりてわたりてわたりてわたりて

あはれにわたりて

村儀

蓮

あはれにわたりてわたりてわたりてわたりて

或奇とて

あはれにわたりてわたりてわたりてわたりて

あはれにわたりて

あはれにわたりて

端午 付 一 飲 酒

八木 あり とき

今朝の酒のうわわあは乃と細の活

重定

と朝よ都鄙のさく入民比一飲酒

兼次

清水 浩

水は清なる夏乃く一山乃と夢

兼次 あり とき

水無月

みさ月とくさくさくく沖江波

兼次 あり とき

雛 夏

たぐり味曾夏大豆まのる雛

後屋

鼻母まのあきあき

中きつうさるさく鼻の白梨

勝純

秋

秋 柳

黄るわわのやきわあふ川柳

黄るわまのあきあきあき柳

本地と朝の柳のあきあき柳

葉の黄なるやせむ風み物此葉

江戸
林麻

露

水と涼いあつてつゝるまほ

友永

露

皆みこめまりたらしり多ふ菊

大坂を森かろ
清成

そよひよりまはるる海くさうあつて

大坂
清成

萩

春中野の萩も地は燈れ花

生垣のじつとあつてうん萩もき

長門をの萩も萩の花を介

尾川野
多保

名は萩花も宮城野萩は花

大坂
清成

名は萩花もひらりもむそ萩の

大坂
清成

咲野をこれよき萩のよきよ時

大坂
清成

中らくと萩花のよきこれやねる

大坂
清成

縄垣はよくゆい花よ萩のよる

大坂
清成

のまきらん萩の葉のよひけり

大坂
清成

新のそりくくし母むくくあひ

水名長昌

くくあひあひあひあひあひあひ

慈聖寺住持長壽
長又家

縄垣のけいよりの森の花

江戸
折井

蘭

あしきしんらんそしじろもれん

三歌
元歌

あしじろのそれをいそら

後水門町
浄次

芙蓉

かろくくくくくくくくくくく

慈聖寺住持長壽
三歌
一入

秋田

あまのくくくくくくくくく

心成

麻

あまのくくくくくくくくく

あまのくくくくくくくくく

慈聖寺住持長壽
貞好

あまのくくくくくくくくく

慈聖寺住持長壽
三歌

あまのくくくくくくくくく

月

くくくくくくくくく

廻千九

とらふふのころわらうとわらうと
うたふの地をくらうととらうと

五条池上会館
兼
八三忠
尾形海住佐
了義
為門

鳴

あつたもは鳴るもははらうもはらう
ととれこころあつたもはらうと
とらうとらうと鳴るもはらうと

政次
勝吉

月

月とあつたもはらうととらうと

月とあつたもはらうととらうと
中よまらうととらうととらうと
とらうととらうととらうと

名所の月と

長月と清月とあつたもはらうと
なのまらうととらうととらうと
張子のまらうととらうととらうと

因別名はた
長月
尾形海住佐
了義
為門

五月廿二日 辰時

巨奈河の船所手尾
長初村 重丸

六月廿二日 辰時

一治
野別活泉寺

七月廿二日 辰時

吉乃
尾別大正法本

八月廿二日 辰時

おき
堀原寺

九月廿二日 辰時

一治
堀原寺

十月廿二日 辰時

吉乃
堀原寺

十一月廿二日 辰時

吉乃
堀原寺

十二月廿二日 辰時

吉乃
堀原寺

Handwritten text in cursive style, including dates and names, arranged in columns.

清信 冷本吉美
一氣

名月

五二

在母は黄いそしき氣にそめ月

日本海川町

室室

菊

長之れい野菊のくまのたん水

くまに紫みおねとまにたき一海の

未得

あつりい野菊のくまにたき一海

月

菊とよおのつと信ふ人志

前うそ

綺とくひなあき菊まじりるんが

一考

もくまふりあくまそ菊ふるき

玄摠

木實

あつき松おろしあまとい木水

辨別ま取
玄望

くまのまうあつやあつ柳の

無水以元わつ
清成

あつ字は柳白香冠

から松のあつきこれさねる木

思原うあつ
重治

桃の本はあつといおる柳のき

幾原新後田
正徳

廻り

考

あつきついでにぬいすれあは

梅川茶所抄并傳持
玄存

雜秋

あつし繩車火あつくもあひる

黒瀬うらら
堂治

野菊の文を句十句

あつきついでにぬいすれあは
あつし繩車火あつくもあひる
あつきついでにぬいすれあは
あつし繩車火あつくもあひる
あつきついでにぬいすれあは
あつし繩車火あつくもあひる
あつきついでにぬいすれあは
あつし繩車火あつくもあひる
あつきついでにぬいすれあは
あつし繩車火あつくもあひる
あつきついでにぬいすれあは
あつし繩車火あつくもあひる
あつきついでにぬいすれあは
あつし繩車火あつくもあひる
あつきついでにぬいすれあは
あつし繩車火あつくもあひる

晴信人小の書
宗利

冬

霜

冬 時をこぼれたりわふをいせ

高尾山に於て所三事
高尾山に於て所三事
高尾山に於て所三事
高尾山に於て所三事

炭

冬 炭 時をこぼれたりわふをいせ

高尾山に於て所三事
高尾山に於て所三事
高尾山に於て所三事
高尾山に於て所三事

雪

冬 雪 時をこぼれたりわふをいせ

冬 雪 時をこぼれたりわふをいせ

冬 雪 時をこぼれたりわふをいせ

冬 雪 時をこぼれたりわふをいせ

冬 雪 時をこぼれたりわふをいせ

水鳥

冬 水鳥 時をこぼれたりわふをいせ

冬 水鳥 時をこぼれたりわふをいせ

冬 水鳥 時をこぼれたりわふをいせ

冬 水鳥 時をこぼれたりわふをいせ

多るはこころのふもとの川
うらやまのつらさのつらさ

中江良房
永春
兼忠海法
英三

子息二句と十句

Handwritten text in a vertical column, likely a list of names or titles, including characters like 子息, 二句, and 十句.

諸位
一書

神樂 付神正月

尾州徳田橋中

祿直やまのりらふらく祿まき

尾重

まられりあつとそ十月神の海

七領所
三堂
吉松

雑考

まきこのまらじらわまきまき

兼公尚書

目八雲は子餅くららま子れ祝ひ

昌能

中こみりらふまららう紙子ら

毎延

中あまらうらみ流らり

如海

まきとまきよかたてたのまきまき

野口甚之助
則重

取中まらまきまらまき取中まら

丹波
三重友

池のふまらまらり遊志京

博川
一繁

まきまらまらまらまら

同

まきまらまらまらまら

尾重
三堂
吉松

今朝のまらまらまら

一助

まらまらまらまら

尾成

年肉之表

永い冬表永たりの世ふ日ふ

表

慶安以曆仲秋吉辰日

崑山館道可處士鋟板

江戸四日市
古今珍書館
達摩堂五

